

日本小児外科学会  
令和2年度第5回定例理事会

日時：令和3年1月13日（水）11：00～16：00

会場：各施設から Web 参加

出席者：田尻達郎（理事長）、山高篤行（前会長）、黒田達夫（理事・会長）、越永従道（理事・次期会長）、臼井規朗、金森 豊、野田卓男、浮山越史、大植孝治、田中 潔（以上理事）、窪田正幸、八木 實（以上監事）、藤野明浩（庶務委員長）、浦尾正彦（財務会計委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、照井慶太（庶務副委員長）、山田洋平（庶務委員）、家入里志（施設認定委員会委員長）、菱木知郎（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員会委員長）、廣部誠一（第36回秋季シンポジウム会長）、和田 基（医薬品・医療機器検討委員会委員長）、仁田尾慶太、登坂早百合（以上事務局）  
欠席者：増本幸二（副理事長）

議事案件：

議 事：

1. 第4回定例理事会の議事録署名人は臼井規朗理事、大植孝治理事とした。

2. 令和2年度第4回定例理事会議事録につき全会一致にて承認された。

3. 審議事項

1) 第57回学術集会について（山高前会長）

山高前会長より資料に基づき、第57回学術集会会計報告がなされ、承認された。

- ・余剰金に関しては補助金とともに学会に返金することが報告された。
- ・浦尾財務委員長から余剰金に関しては今後、学会に返金するか会長に預けるか検討する方針が報告された。

2) 第58回学術集会について（黒田会長）

黒田会長より、進捗状況が報告され承認された。

緊急事態宣言が延長された場合の本学術集会延期の選択肢について審議され、Hybrid形式でこのままの日程で行く方針となり承認された。

日時：令和3年4月28日（水）、29日（木）、30日（金）

会場：パシフィコ横浜ノース

テーマ：自然の臣たるなかれ

3) 第59回学術集会について（越永次期会長）

越永次期会長より資料に基づき、進捗状況が報告され承認された。

- ・会場内容が報告された。
- ・第1次の会告内容が提示され、次回理事会で承認を得る方針となった。

- ・会長招宴は5月18日（水）が提案され承認された。
- ・拡大評議員懇親会については今後の状況に応じて柔軟に会長マターで検討していく方針となった。
- ・全員懇親会は5月20日（金）が提案され承認された。
- ・名誉特別会員、役員等の接遇方針については前回までのを参考に内容を検討していく方針となった。

日時：令和4年5月19日（木）、20日（金）、21日（土）

会場：虎ノ門ヒルズフォーラム

テーマ：創業と守成 Create and Sustain

#### 4) 第36回秋季シンポジウムについて(廣部秋季シンポジウム前会長)

廣部秋季シンポジウム前会長より資料に基づき、決算報告書(案)が報告され承認された。

- ・余剰金に関しては学会に返金することが報告された。
- ・会場費のキャンセル料はなかったため研究会に負担してもらう必要はなくなったことが報告された。
- ・WEB開催においてシステムやコミュニケーションにてトラブルはなかった。
- ・会計において会場費などがかからないのは大きかったがWEB協賛を獲得するのが困難であった。

#### 5) 第37回秋季シンポジウムについて(金森秋季シンポジウム会長)

金森秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され承認された。

- ・Hybrid形式にする方針。
- ・プログラム委員長を古村真先生に任命しプログラムの構成を行っていることが報告された。

日時：令和3年10月30日（土）

会場：ベルサール神田

テーマ：小児外科疾患に対する再生医療・細胞療法研究と応用

#### 6) 第38回秋季シンポジウムについて(野田次期秋季シンポジウム会長)

野田次期秋季シンポジウム会長より、進捗状況が報告され、承認された。

日時：令和4年10月29日（土）

会場：岡山コンベンションセンター

テーマ：小児外科治療後のサルベージ

#### 7) 第39回秋季シンポジウムについて(臼井次々期秋季シンポジウム会長)

臼井次々期秋季シンポジウム会長より、進捗状況が報告され、承認された。

日時：2023年秋頃予定

会場：未定

テーマ：小児外科領域における感染症対策

## 8) 各種委員会報告および審議事項

### (1) 庶務委員会(藤野委員長)

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

令和2年12月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,727名(うち海外1名)、評議員を除く準会員13名、評議員318名、名誉会員59名(うち海外8名)、特別会員70名(うち海外1名)の合計2,187名であると報告された。

- ・入退会者リストで正会員に入会した方で所属不明者がおり事務局で確認中であることが報告された。

### (2) 財務会計委員会(浦尾委員長)

浦尾委員長より資料に基づき報告がなされ、承認された。

#### ・中間決算について

会費収入については会費の回収率が良かったが、専門医制度収入についてはコロナの影響もあり、かなり減少してしまった。全体的に赤字は見られなかったことが報告された。

- ・今後の財務会計委員会の予定についてのご報告があり承認された。

- ・税理士監査費用について学会がNPOと一社に分かれたことにより仕事量の増加と他学会とのバランス修正に伴い、監査費用が80万円となったことが報告され承認された。

- ・外税方式への変更について報告され年度変更時に対応していく方針となった。また外税分を値上げしていくことが承認された。

- ・医師賠償保険への加入推進について脱退者が出てきており、割引率が減少するのを防ぐため、2021年5月末日迄に200名を超える加入者にするよう入会を推進する方針。

バナー広告、メール配信をする予定であることが報告され承認された。

- ・各委員会への外部委員参加に対する謝金の増額について1回の参加について9000円と交通費だったが、COVID19感染下ではオンライン参加が多くなると考えられますが有識者の参加に対して3000円の謝金は安すぎるのではと意見もあり参加費を一律9000円/回の提案がされ承認された。

- ・学術集会運営・費用のあり方について

COVID19感染蔓延に伴い開催形式の変更が余儀なくされており、支出も予測しがたい状況にある為、総合調整委員会で指針を検討していく方針となった。

### (3) 専門医制度委員会(菱木知郎専門医認定委員会委員長、家入里志施設認定委員会委員長)

、古村 眞専門医制度庶務委員会委員長)

菱木知郎専門医認定委員会委員長、家入里志施設認定委員会委員長、古村 眞専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、進捗状況が報告され承認された。

菱木知郎専門医認定委員会委員長より以下のことが報告された。

- ・2020年度の専門医認定業務が終了したことが報告された。

- ・2021年度以降の専門医認定業務について

専門医・指導医（新規）：例年通りの対応で検討していることが報告された。

専門医・指導医（更新）：例年通りの対応で検討しているが診療実績が満たせない会員がいた場合の救済処置も検討中であることが報告された。

田尻達郎理事長より、サブスペシャリティ領域専門医制度について報告がされた。

- ・外科学会としては2020年度の会議においてはサブスペシャリティごとの対応に応じて連動更新を行っていく方針であることが報告された。

- ・サブスペシャリティ領域専門医審査のためのレビューシートの追記について外科学会に提出したことが報告された。

家入里志施設認定委員会委員長より以下のことが報告された。

- ・2020年の症例数が認定に影響のある施設のみ4年間カウントとしたことが報告された。

- ・2021年度以降の施設認定業務について

新規・更新ともに2020年が過去3年間の症例カウント期間に入る場合は、カウント期間を4年として3で除して平均の値で評価する方針であることが報告された。

#### (4)機関誌委員会(大植担当理事)

大植担当理事より報告がなされ承認された。

- ・昨年の1月から12月号までに掲載された論文の優秀論文の審査が行われていることが報告された。2月のWEB会議にて決定する予定。次回理事会で報告されることとなった。

#### (5)国際・広報委員会(田尻担当理事)

田尻担当理事より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

- ・『学会HPの掲載内容の引用・転載のお願い』の依頼書を新しく作成し手順が決められたことが報告され承認された。

#### (6)保険診療委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より、資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・高難度新規医療リストについて

前回のアンケートと同様に回答をしたことが報告された。

- ・令和4年度診療報酬改正に向けて

技術新設4件、技術改正8件が報告された。

(7)教育委員会(大植担当理事)

大植担当理事より報告がなされ承認された。

- ・ e-learning について企業の関係ですぐに導入することが難しいとなったがコンテンツは積み上げていく方針となったことが報告された。
- ・ 今回の学術集会でプログラムを Hybrid 形式とし動画を蓄積していく事と、Hybrid 形式に対してアンケート調査を行い、今後も Hybrid 形式の要望が多ければ、COVID19 の収束後もセミナーに関しては継続していくことを検討する方針であることが報告された。
- ・ 研修医・学生向けのコンテンツをメール審議で検討中であることが報告された。

(8)悪性腫瘍委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・ 悪性腫瘍登録の倫理審査について  
追跡の悪性腫瘍の登録で承認期間が切れてしまう申請がある為、IRB を通して 5 年延長する方針となった。その後、日本小児血液・がん学会で悪性腫瘍登録を一本化していく予定であることが報告された。

(9)学術・先進医療検討委員会(臼井担当理事)

臼井担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・ 小児期の急性期肝不全の全国調査について  
本年度の分は理事会で承認を得て委員会で審査を行い特に問題がなかったことが報告された。
- ・ 乳児仙尾部奇形腫の長期予後に関する全国アンケートについて  
アンケートの施行自体に問題はないが、2 次調査の締め切りを延長したほうがよいという意見があったことを付帯して審議結果を事務局に報告を行った。
- ・ 新生児全国調査について  
令和 2 年 9 月の学術集會にて報告。委員会報告として令和 2 年 12 月号の日本小児外科学会雑誌に掲載された。また NCD に統計処理を行って頂いた経費は税込み 259,200 円であることが報告された。
- ・ 小児外科新生児集計の覚書について  
新生児全国調査の統計処理過程において、何度か算出ミスが発生し混乱が生じたことに関連し、今後の同様の統計解析に備え NCD 側と覚書を交わし、法的にも問題ない文章であると確認の上、締結したことが報告された。
- ・ surgery today について  
奥山宏臣先生から surgery today の編集代表者会議において今後は欧米ではなく日本の雑誌の IF を高めるよう、各学会で協力しようという内容で、具体的には引用が期待できる論文の積極的な掲載の検討依頼が届いたことが報告された。学会としては現段

階では理事会内で周知しておく方針となった。

(10) 倫理・医療安全管理委員会(野田担当理事)

野田担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・第58回学術集会の倫理・医療安全管理講習会の抄録内容とHybrid形式での現地での聴衆にはクレジットが付く方向で進められていることが報告された。

(11) データベース委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、承認された。

- ・研究成果のページについて

データベース委員会のHP欄について論文および学会発表を掲載することとなり、掲載内容は演題名、演者名、発表学会名などにとどめ、論文PDFや発表スライドは掲載しないこととなったことが報告された。

- ・NCD利用研究 審査方法について

本年度の小児外科領域のNCD研究について9件あり審査に負担がかかった為、今後の審査方法の検討が行われたことが報告された。

- ① 委員1人当たりの検討する論文数を最大5件とする。
- ② 来年度から審査補佐を導入する。
- ③ バイアスを防ぐため第2段階の2段階審査(1次審査上位課題に対する最終審査)を実施する。(ワーキンググループを設置して検討予定。)
- ④ 同一研究者、同一施設の採択制限については妨げない方針となった。(ワーキンググループを設置して検討予定。)

- ・来年度の小児外科領域NCD利用研究応募スケジュールについて

2021年4月15日を締め切り予定としていることが報告され、承認された。

(12) 小児救急検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・2021年度小児救急セミナーに関して『小児救急と遠隔医療』で決まったことが報告された。

- ・PALS講習会について

2020年

開催日：10月17日、18日

4名参加：会員1名、非会員3名(小児科医2名、看護師1名)

2021年

候補 ① 9/18(土) BLS, 9/19(日), 20(敬老の日) PALS

候補 ② 7/17(土) BLS, 7/18(日), 19(月) PALS

上記の候補日が承認された。

- ・小児救急受入れ状況調査について

94 施設中 88 施設より回答があり、HP に掲載する際は記号の説明も追加することが報告された。

(13) トランジション検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・トランジション実態調査について

192 施設中 152 施設から回答が得られ、内容をまとめている最中であり結果を4月の学術集会・機関誌で報告する方針であることが報告された。また HP 内の会員ページにも掲載する方針となった。

(14) ワークライフバランス検討委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・今後の講演会について WLB 企画についても常に共通講習とすることについて提案がなされ学術集会側と検討していく方針となった。

- ・女性理事について WLB 委員聞き取り結果について

委員 9 人中 7 人より返答があり。賛成 2、反対 2、条件付き賛成 3 という結果となった。詳細としては賛成意見としては、女性の意見を広く反映させる(多様性のある組織として機能するため)、ポジティブアクションの考えを支持する。反対意見としては、一人は実際女性理事になりたい人がいるのかと懐疑的なもの、もう一人は女性だからではなく実力で理事を勝ち取っていききたいというものであった。条件付きの条件とは 2015 年当時、評議員ポジティブアクションでも問題となった透明性という点などの報告がなされた。

- ・総会企画について

① 総会企画にある小児外科医の育成テーマと関連付けて、マッチングシステムなど若手キャリア支援をテーマにする。

② 業務時間短縮を強制する働き方改革について

③ リーダーシップ論

等のテーマが挙げられ、委員会内で検討し次回理事会にて結果を報告することとなった。

(15) 規約委員会(金森担当理事)

金森担当理事より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(16) 研究倫理委員会(野田担当理事)

野田担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・第 57 回学術集会の演題に対する査読時の倫理規定に関する評価について
  - ① 演者、査読者とも明らかにカテゴリ-B1 の認識不足、周知不足である事案が 43 演題中 15 題と最多。
  - ② 外科学会のカテゴリ分類からは症例報告はカテゴリ-A であり、倫理的配慮や承認は不要とされており、演者の評価も正しいが、小児外科という希少性から抄録などで施設名が明らかとなると個人が特定されてしまう可能性があり、施設の倫理委員会承認や家族の同意が必要と考えられるものが、43 演題中 12 題あった。
  - ③ 演者の倫理的配慮の必要性に関する評価が正しく、「施設の倫理委員会などの審査、承認が必要だが、今年度は得ていない」と認識しているため現時点では問題ないとされるものは、4 題だった。

査読者の認識不足が予想以上に多く、さらなる啓蒙が必要であることが考えられたが、学会での啓蒙も必要だが、各施設の対応をもっと強化すべきとの意見が上がったことが報告された。

#### (17)NCD 連絡委員会(臼井担当理事)

臼井担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・第 11 回 NCD-小児外科領域会議の予定については、第 58 回日本小児外科学会学術集會期間中に開催させていただく予定である。前回と同様、報告を中心としたものになる予定であることが報告された。
- ・学会としての小児外科専門医の地域ごとの適正数を判断するための基礎データについては解析結果について総合調整委員会に提出したことが報告された。
- ・2021 年度 NCD-P 改修作業について、NCD 事務局から 2021 年度 NCD-P の改修完了の報告と動作確認依頼を受けた。委員会で試験環境での動作確認・不具合チェックを行い、特に問題ないことを確認した。本年 1 月から NCD-P 2021 年度版が稼働予定であることが報告された。
- ・NCD 小児外科領域アニュアルレポートの進捗状況について、2017 年-2018 年アニュアルレポートについては、委員会報告として機関誌への投稿準備を進めており、現在委員会内で査読中である。2019 年分のアニュアルレポート解析については、解析内容と項目は 2018 年と同様で NCD 側で対応していただけるとの合意ができていることが報告された。
- ・リスクカリキュレーターについて、NCD 連絡委員会内で動作確認したうえで、11 月 26 日に高難度 12 術式に関するリスクカリキュレーターが NCD-P に実装された。学会ホームページでは 12 月 7 日付けで「NCD 小児外科領域リスクカリキュレータの実装(リリース)について」として告知され、12 月末に「会員ニュース」でもメール配信されて告知されたことが報告された。



- ・自施設データダウンロードについて11月19日に沖縄徳洲会千葉西総合病院からの自施設データダウンロード許可依頼を承認したことが報告された。
- ・第26回NCD運営委員会について前回の理事会で口頭報告のとおり、2020年10月26日に第26回NCD運営委員会が開催された。NCDデータ取扱規程が定められることになり、新たに設立されるNCD統計解析委員会の許可の下、一定の要件を満たせば学会員が登録データを閲覧できるようになる予定であることが報告された。
- ・小児外科-COVID19手術調査術式提案試について、熊本大学の日比泰造先生より、日本外科学会でCOVID-19による2019年と2020年の手術数増減調査をする際、小児外科領域でどの術式を調査すべきかの問い合わせがあったため、小児外科としての提案を行ったことが報告された。

#### (18) ガイドライン委員会(金森担当理事)

金森担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・小児外科診療に関するガイドライン等の情報提供について、新規ガイドライン6件をHPのガイドライン集に掲載予定。
- ・腸回転異常症診療ガイドラインについての進捗状況は草案が完成され、これから統括の先生にみてもらい外部評価を行う予定。
- ・今後の予定としては胃軸回転のガイドラインを作成予定。
- ・今回の学術集会でガイドライン委員会の報告を行う予定であり、それとは別にシステムティックレビューチームから独自の演題をだしたいと提案があり演題提出を行っていることが報告された。

#### (19) 利益相反委員会(金森担当理事)

金森担当理事より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

#### (20) 総合調整委員会(藤野庶務委員長)

藤野庶務委員長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・令和2年度第3回総合調整委員会議事録案につき報告され承認された。

#### (21) 日本外科学会理事会(田尻理事長)

田尻理事長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・COVID-19による外科医への影響に関するアンケートについて外科学会会員に行われることが報告された。小児外科学会としてもこのようなアンケート調査が必要と考えられ、施設を対象に小児救急検討委員会にてアンケート案を検討することとなった。

#### (22) 四者協関連(越永前理事長)

田中理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・発達障害への対応委員会議事録案につき報告された。

#### (23) 医薬品・医療機器検討委員会（和田委員長）

和田委員長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・メンバーは委員長、副委員長、委員長補佐で構成されていることが報告された。
- ・活動内容は小児外科でニーズがある医薬品や医療機器に対して検討し行政に要望を行っていくことが報告された。
- ・現在対応している案件は下記の3件であることが報告された。
  - ① 短腸症候群に対する治療薬 **Teduglutide** の早期承認の要望・テデュグルチド製剤の在宅自己注射指導管理料への対象追加の要望書について  
保険診療委員会と連携して検討を行い承認審査の段階に入っていることが報告された。理事会終了後1週間、特に意見が無ければ要望書を提出することとなった。
  - ② 魚油由来静脈注射用脂肪乳剤 (**Omegaven**)医療上必要性の高い未承認薬要望に関する相談について  
厚生労働省と企業でコンタクトを取り相談中。企業に積極的になってもらうよう配合剤 **SMOF** の要望についても並行して進める方針であることが報告された。
  - ③ ミキサー食注入で健康をのぞむ会より「既存規格接続コネクタ存続と使用継続の要望」への賛同の要請について  
委員会で検討したが、新規格は薬剤などの誤注入防止のための国際規格であり、学会としては要望に賛同はできないと思われる。解決できる方法はないか相談に応じる方針であることが報告された。
- ・小児科領域の医薬品・医療機器に対応した会議が行われるので日本小児外科学会として参加する予定であることが報告された。

#### 9) 選挙管理委員会（藤野選挙管理委員長）

藤野選挙管理委員長より以下の点について報告がなされ、承認された。

- ・評議員選挙の結果が報告された。
- ・クオータ制で推薦された女性評議員についてワークライフバランス検討委員会の浮山担当理事から報告がされた。
- ・推薦された女性評議員には理事会後、内諾をもらい確定評議員の告知を行う予定であることが報告された。
- ・小児麻酔学会の交換評議員について確認を行うこととなった。
- ・役員選挙の選挙管理委員会は酒井清祥先生と奈良 啓悟先生であることが報告され、承認された。
- ・役員選挙のお知らせ・公示はメール配信とHP掲載で行うことが報告された。

- ・評議員会は委任状提出者も WEB 上での参加が可能であることのお知らせをする方針となった。
- ・事務局から各委員会の担当理事・委員長に資料を 2 月末までに資料を提出のお願いを連絡することとなった。

10) 虐待による乳幼児頭部外傷に対する日本小児科学会の見解について（田尻理事長）  
田尻理事長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・内容について賛同が得られるか提案がされ承認された。

11) 日本医学会 120 周年記念事業「日本医学会 120 年記念誌」について（田尻理事長）

- ・意見・要望があるか確認後、提出することが報告された。

#### 4. 報告事項

##### 1) 理事長報告(田尻理事長)

- (1) 第 2 回メール審議報告 全国規模の学術アンケート調査協力のお願について、全会一致にて承認されたことが報告された。
- (2) 第 3 回メール審議報告 NCD 複数領域研究について、全会一致にて承認されたことが報告された。
- (3) 日本婦人科腫瘍学会からの通信文「理事長就任のあいさつ」を受領した。
- (4) 日本医療安全調査機構からの通信文「事務所移転のお知らせ」を受領した。
- (5) がんの子どもを守る会からの通信文「後援事業の終了報告書」を受領した。
- (6) 日本新生児成育医学会からの通信文「理事長就任のあいさつ」を受領した。
- (7) 日本泌尿器科学会からの通信文「「医学会の医師決定組織における女性登用についてのアンケート」ご協力のお願」を受領した。
- (8) 日本臨床腫瘍学会からの通信文「理事長交代のお知らせ」を受領した。
- (9) 日本乳癌学会からの通信文「選挙制度に関するアンケートご協力のお願」を受領した。
- (10) 日本医学会からの通信文「エボロクマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改正について」を受領した。
- (11) 日本医学会からの通信文「チサゲンレクルユーセルの最適使用推進ガイドラインの一部改正について」を受領した。
- (12) 日本医学会からの通信文「デュピルマブ製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改正について」を受領した。
- (13) 日本医学会からの通信文「医薬品の適応外使用に係る保険診療上の取扱について」を受領した。
- (14) 日本医学会からの通信文「疾病の兆候を検出し受診を促す家庭用医療機器の承認申請に当たって留意すべき事項について」を受領した。

- (15) 日本医学会からの通信文「再生医療等提供計画等の記載要領等の改訂について」を受領した。
- (16) 日本医学会からの通信文「押印を求める手続の見直し等のための厚生労働省関係省令の一部を改正する省令の施行等について」を受領した。
- (17) 日本医学会からの通信文「MID-NET の利活用に係る申出等の事務処理手続の取扱いについて」を受領した。
- (18) 日本医学会からの通信文「アテゾリズマブ製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改正について」を受領した。
- (19) 日本医学会からの通信文「人工呼吸器と組み合わせて使用する製品に関する自主点検等について」を受領した。

## 2) その他の報告

- (1) AYA week 2021 への協働のお願い
- (2) 2020 秋季シンポジウム委員会議事録(案)
- (3) 領域横断的なフレイル・ロコモ対策の推進に向けたワーキンググループ説明会について  
白井理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。
- ・日本医学連合会に加盟する学会で協力して医療対策をすることが提案されたことが報告された。
  - ・領域横断的なフレイル・ロコモ対策に関するアンケート案が提案され 1、2 週間ほどメールで意見を募り提出する方針となった。

## 3) 次回定例理事会日程の確認(田尻理事長)

次回定例理事会は令和 3 年 3 月 3 日 (水) 11 : 00 ~ 16 : 00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_